

(3面から)

矮小化しすり替える手法が政治文化の劣化を助長

内田 もう一つ、維新の会が持ち込んだ政治文化の腐敗だと感じたのが、大阪府が2012年に導入した「教育・職員基本条例」です。この条例は労働組合の弾圧や、職員の思想調査が行われるなど大きな問題がありました。

これに対して、記者からは「教員の良心・思想信条の自由に対する侵害ではないか」と、至極当然な問いかけが行われました。

内田 しかし、この質問に対して橋下氏は「違う」と断言しました。「思想信条の問題でも政治の問題でもない」と述べたのです。では何かといえは、「業務命令の問題だ」と言うのです。

つまり、上司が出した業務命令に対して背くのは「就業規則違反」であり、処罰対象になるのは当たり前だと言いつつ、政治的な問題を組織マネジメントの問題に矮小化しようという極めて危険な発想でした。しかし、この論法も今や日本全国を覆いつくすようになりました。

現在の高市早苗経済安保相の、放送法をめぐる問題でも同じような弁がみられます。放送法の解釈変更という極めて政治的な問題にも関わらず、まず「言った・言わない」のレベルまで話を落としていく。

そのうえで「内部告発する人間がいる組織はマネジメントができていないのではないか」という問題に議論をすり替えていく。

このように政治の問題を論点ごころかレベルが違う問題に、より矮小な方向にすり替えていく。これとリンクするのが先ほど述べた、「勝った者が正しい」というパワークラシイの思想です。

少数派の意見を取り上げないことを正当化するロジックの一つとして、政治の問題であっても「組織マネジメントの問題」と言いきって、批判を受け入れようとする。高度に政治的な問題でも非常にレベルの低い問題に転換してしまふ。この手法を看過してしまつたために、大阪のみならず日本の政治文化が劣化したのだと強く思います。

「加速主義」変革自体の目的化と自己破壊的な欲求

内田 もし、大阪府民が「問題点を知らないまま大阪府政を支持している」ならば、問題点を伝えることで効果はあると思います。

しかしながら、実際のところ府民の多くは、大阪府政の問題点をある程度は理解しながら支持しているのではないのでしょうか。

内田 私の知り合いにもギャンブル依存症の方がいますが、治療が困難なことを実感しました。基本的にはギャンブルに触れる機会をできるだけ減らすしかありません。

しかし、大阪では自治体の長がカジノを声高にアピールし、依存症を作り出そうとしています。

吉村府知事は対策に力を入れると言っていますが、依存症がもたらす破壊的な影響についてわかっているとは全く思えません。依存症は本人だけでなく、周囲を破壊する

また、大阪府は依存症の総合対策や、治安対策強化などに力を入れると言っていますが、そもそもカジノをさなければ対策は必要ありません。なぜ対策が必要なのか、その中で痛感したのは、現在問題になっている宗教二世の問題と同じように、依存症は本人だけでなく子どもにも深刻なダメージをもたらすものだという事です。

石川 「ギャンブル依存症家族の会」のお話を聞いたことがあります。そこで痛感したのは、現在問題になっている宗教二世の問題と同じように、依存症は本人だけでなく子どもにも深刻なダメージをもたらすものだという事です。

「加速主義」変革自体の目的化と自己破壊的な欲求

一方、社会には「変革ありき」を進めてはならない分野があります。社会の基幹部分を支え、急激な変化を押しとどめようとする存在、例えば医療や教育、芸術、学術研究などです。これらは加速主義とは相いれない「変革のブレーキ」に他なりません。だからこそ、維新の会はそうした存在を攻撃したのでしょ。

そして、こうしたブレーキが壊されれば、社会がとんでもないことになるとは明らかですが、今の大阪府政を支持する方々は、危険性を知らないながらも、ひたすら変化を求めることに対して少なからず共感を覚えているのだと思います。そうした方々に問題点を述べても簡単には変わりません。

また、今の府政のコアな支持層については、ビジネス的に成功している方が少なくありません。そのため、社会保障の削減の危険性を訴えてもなかなか響きません。それどころか「競争で勝った人間の懐に手を突っ込んで、その金を奪って貧乏人に再分配するなんてことは市民的自由の侵害である」「不平等な社会保障システムは無くして構わない」という声を聞かれるのです。そうした極論に対して、危険性を丁寧に訴えたとしても、彼らはその

危険性が本当なのかもっとアクセルを踏んで、結果を早く見たいとすら願うのです。こうしたいわば自己破壊的な欲求に対して、単純に正論を突き付けても残念ながら効果は見込めません。

「リアル」を示して変革ありきの政治を変える

石川 想像力が欠如して過激な変化を要求するというのは、今や日本全体で見られることです。特に防衛問題で強く感じます。

しかし、もし日本が戦争に巻き込まれればウクライナなどと違って陸路がないため、国民は海外に逃げることができません。そこにミサイル攻撃を受ければ避けようがありません。また54基もの原発が国内にあり、一つでも吹き飛ばせば、深刻な放射能汚染に見舞われてしまいます。さらに、日本の食料・エネルギー自給率は僅かですから、生き残ることは困難です。

石川 想像力が欠如して、大阪府職員の取り組みが思い出されず。これまでの維新府政のもとで、公務員は役に立たないものとして、予算も人員も削減され続けてきました。しかし、今回のコロナ禍で、その弊害が明らかとなりました。保健所は十分機能できず、病院もベッドも足りない状況に陥ったのです。

石川 維新の会が府政を担当してからもう15年になります。それだけ経ったのですから登場当初のように、既成政治を打破する改革者という振る舞いはもうできません。いまや維新府政こそが既成政治であり、もたらしたものは何か、よく考える必要があります。

石川 今回の選挙が、アクセルありきではなく、立ち止まって熟慮し、新たな選択をしていく一歩になることを願っています。

再考を求める声を無視しカジノ強行の姿勢崩さず

石川 少数派の意見を聞かないということは、カジノ政策にも表れているように思います。

大阪ではカジノ誘致反対の声が巻き起こり、賛否を問う住民投票を求める署名は法定数を超えるまでに集まりましたが、府知事などはそうした声を無視したまま、先陣を切ってカジノを作ろうと

石川 少人数の意見を聞かないということは、カジノ政策にも表れているように思います。

大阪ではカジノ誘致反対の声が巻き起こり、賛否を問う住民投票を求める署名は法定数を超えるまでに集まりましたが、府知事などはそうした声を無視したまま、先陣を切ってカジノを作ろうと

石川 少人数の意見を聞かないということは、カジノ政策にも表れているように思います。

大阪ではカジノ誘致反対の声が巻き起こり、賛否を問う住民投票を求める署名は法定数を超えるまでに集まりましたが、府知事などはそうした声を無視したまま、先陣を切ってカジノを作ろうと

「変革ありき」の熱狂に対峙し

維新政治を変える選択を

民の健康を破壊します。推進側は、カジノの顧客は海外の富裕層などと言いますが実際には、カジノ事業者自身が日本人を対象にしていると言っています。

ただでさえ、日本は競馬やパチンコなど「ギャンブル大国」なのに、さらにカジノを作ることで、より多くのギャンブル依存症患者を生み出すことになっているのです。依存症は本人だけでなく、周囲を破壊する

また、大阪府は依存症の総合対策や、治安対策強化などに力を入れると言っていますが、そもそもカジノをさなければ対策は必要ありません。なぜ対策が必要なのか、その中で痛感したのは、現在問題になっている宗教二世の問題と同じように、依存症は本人だけでなく子どもにも深刻なダメージをもたらすものだという事です。

「加速主義」変革自体の目的化と自己破壊的な欲求

一方、社会には「変革ありき」を進めてはならない分野があります。社会の基幹部分を支え、急激な変化を押しとどめようとする存在、例えば医療や教育、芸術、学術研究などです。これらは加速主義とは相いれない「変革のブレーキ」に他なりません。だからこそ、維新の会はそうした存在を攻撃したのでしょ。

「リアル」を示して変革ありきの政治を変える

石川 想像力が欠如して過激な変化を要求するというのは、今や日本全体で見られることです。特に防衛問題で強く感じます。

また、大阪府は依存症の総合対策や、治安対策強化などに力を入れると言っていますが、そもそもカジノをさなければ対策は必要ありません。なぜ対策が必要なのか、その中で痛感したのは、現在問題になっている宗教二世の問題と同じように、依存症は本人だけでなく子どもにも深刻なダメージをもたらすものだという事です。

「加速主義」変革自体の目的化と自己破壊的な欲求

一方、社会には「変革ありき」を進めてはならない分野があります。社会の基幹部分を支え、急激な変化を押しとどめようとする存在、例えば医療や教育、芸術、学術研究などです。これらは加速主義とは相いれない「変革のブレーキ」に他なりません。だからこそ、維新の会はそうした存在を攻撃したのでしょ。

「リアル」を示して変革ありきの政治を変える

石川 想像力が欠如して過激な変化を要求するというのは、今や日本全体で見られることです。特に防衛問題で強く感じます。

「リアル」を示して変革ありきの政治を変える

石川 想像力が欠如して過激な変化を要求するというのは、今や日本全体で見られることです。特に防衛問題で強く感じます。